

2019年8月30日（金）第15号

共同研究推進委員会通信

発行：教育学部共同研究推進委員会共同研究推進委員長

附属小学校共同研究会が開かれました。

2学期がスタートした附属小学校で、共同研究会が開かれました。学部・大学院からは、森力先生（算数）・山口剛史先生（社会・生活）・小川由美先生（音楽）・浅井玲子先生（家庭）・國吉真哉先生（家庭）・和氣則江先生（学校保健）が参加してくださり、第35回附属小学校公開研究発表会（令和2年1月25日）にむけての共同研究のあり方・進め方について、共通理解を図りました。

附属小学校は、2018年度より「新たな〈教育〉の開発」を目的とした研究に着手しました。具体的には、子どもの成長発達段階に応じた資質・能力を把握するために、子どもたちの生活を準拠点とし、学校教育目標に掲げる「一人一人が夢をもち 未来を生きる力のある子」の達成にむけて、小学校6年間を見通した資質・能力のカリキュラムの開発に取り組んでいます。

昨年度作成した「資質・能力の3つの柱の整理表」と評価基準に照らし、日々の授業や教育活動での子どもの姿や学びの変容等を見とりつつ、特に今年度は教科・領域の枠を越えた資質・能力が、どこでどのように発揮されるかを検討するために、それぞれの「見とり」に力を注いでいます。特に「思考力・判断力・表現力等」において「ふかめる力」に焦点を当て、日々教育実践の深化を図っています。

研究会では、2017年度より共同研究の指導にあたって下さる小嶋季輝先生から、この2年間の経緯と経過について説明をして頂き、附属小学校が取り組む共同研究の意義と目的、そして課題についてお話ししていただきました。



続いて伊藤研究主任からは、研究主題「学びを結びつける力の育成（3年次）」の研究総論の「草案」をもとに、研究主題の設定理由と研究の具体的な成果と課題、そして現状についての報告をしていただきました。前述の「ふかめる力」については、個別の資質・能力の具体や定義について検討し、日々子どもの変容を見とることで、適宜「整理表」の修正・補正が進められていることが紹介されました。

最後に参加頂いた先生方から質疑応答を受けて、すべての教科・領域において共同研究をすすめ、公開研究発表会の成功にむけてのご尽力をお願いしました。

以上のように、今年度の附属小の公開研究発表会は、これまでの「授業公開」に重きをおいたものから、「附属小学校の教育」とその「つくり方」の公開を目指し、事前に学外識者の方（2～3名を予定）に1ヶ月程度附属小学校を自由に見学・観察をして頂き、良い面・悪い面を含めた「評価」をもとに、附属小学校の取り組みが公立小学校へ援用可能なモデルとなるかどうかについて報告して頂きます。よって、公開研究発表会に参加される皆さんには、この「評価」を踏まえて実際の附属小学校の「教育」を参観して頂きたいと考えています。

附属小学校の公開研究発表会が、多くの先生方や教育に携わる様々な皆さんと学びを共有する機会となり、それぞれの学びが進展するために、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願いします。

（文責：共同研究推進委員会附属学校部会 辻）